

エコアクション21

環境経営レポート2023



(活動期間2023年7月～2024年6月)

㊦ マルカ木材株式会社

MARUKA LUMBER CO.,LTD.

発行日 2024年12月23日

《目次》

ページ

表紙

目次	1
----	---

1.会社概要	2
--------	---

2.環境経営方針	3
----------	---

3.実施体制	4
--------	---

4.環境経営目標	5
----------	---

5.環境経営目標及び実績 (2023年7月～2024年6月)	6
-----------------------------------	---

6.環境経営計画と取り組み結果の評価	7
--------------------	---

7.環境経営に関する取り組み内容	8
------------------	---

8.環境関連法規への違反、訴訟の有無	9
--------------------	---

9.代表者による全体の評価と見直し	9
-------------------	---

1.会社概要

社 名	マルカ木材株式会社
所 在 地	福岡県うきは市浮羽町高見83番地1
代 表 者	樋口 幸之助
連 絡 先	TEL 0943-77-2738 FAX 0943-77-2106
資 本 金	15,000千円
創 業	昭和25年7月
設 立	昭和43年3月
生 産 品 目	プレハブ住宅向け木製品 ツーバイフォー住宅向け木製品 構造用集成材、造作用集成材
生 産 量	3274 t/年
従 業 員	25 人(2024年6月末時点)
敷 地 面 積	15,000 m ²
所 属 団 体	福岡県木材組合連合会 浮羽木材協同組合 日本ツーバイフォー建築協会 日本ツーバイフォーランバーJAS協議会 九州集成材組合 他
認 証・認 定	平成6年6月 集成材JAS認証取得 平成18年3月 EA21認証取得 平成23年8月 2×4JAS認定取得 平成31年4月 合法木材供給次行者認定取得 令和2年4月 建設業許可取得
責 任 者	環境管理責任者 小田 寛展
対 象 事 務 所	本社・工場
対 象 活 動	住宅部材生産、集成材生産、 住宅構造生産、資材管理

2.環境経営方針

基本理念

私たちは、事業活動において、木材や木質資材を取り扱う立場から森林資源を最大限有効に利用することを推進しています。

長期的な視野に立って、地球規模での環境保全に取り組み循環型社会の形成を通じて、地域社会との調和に努め共生を目指します。

行動指針

環境経営目標を設定し、定期的な見直しを行い、事業活動に伴う環境負荷を軽減する活動を継続し改善します。具体的には次のようことに取り組みます。

①資源、エネルギーの効率的利用

使用実績の把握を行い、省資源、省エネルギー、リサイクルに努めます。

②木材の3R【Reduce(廃棄物の発生抑制) Reuse(再使用)Recycle(再資源化の推進)】

Reduce :不良品の発生を抑制し、歩留まりの向上します。

Reuse :工場内のリサイクルを行い再製品化します。

Recycle :Material Recycle:工場内リサイクルを行い再製品化します。

:Thermal Recycle:熱やエネルギー源として再生利用します。

③グリーン購入の推進

木材の調達について、合法性や持続可能性が証明されたものを優先します。

④環境保全活動の推進

地域における環境保全活動に積極的に参加します。

⑤環境関連法規の順守

環境関連の法令、その他要求事項を遵守します。

⑥環境方針の周知

環境に対する取り組みを環境活動レポートにて公表します。

制定:2005年1月27日

改定:2020年7月1日

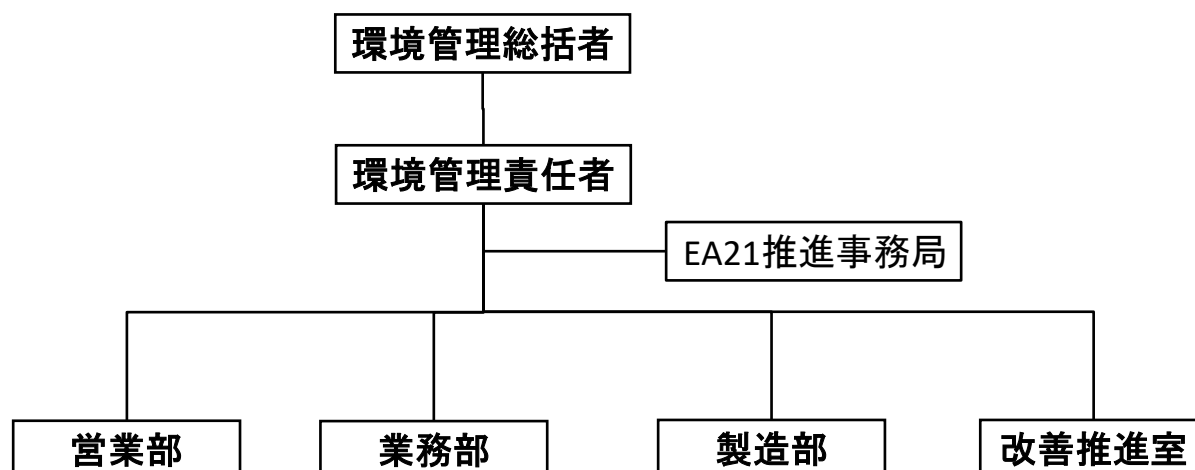
マルカ木材株式会社

代表取締役社長 樋口 幸之助



マルカ木材株式会社 環境活動組織

＜実施体制図＞



＜環境経営の役割・責任・権限＞

代表者（社長）	環境方針の策定 環境管理責任者の任命 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用等を準備 EA21の総合評価と環境方針の見直し
環境管理責任者	環境経営システムの構築・実施・管理 環境経営目標・環境活動計画書の策定 環境活動の取り組みを代表者へ報告 環境活動の実績集計及び評価並びにレポートの作成
EA21推進事務局	環境管理責任者の補佐 事務局員は各部署の責任者（役職者）が担当 環境関連法規の取りまとめ表に基づく遵守状況評価の実施 環境経営目標の実施状況確認 など
全従業員	環境方針の理解と環境への取り組みへの重要性を理解 環境経営目標及び計画の達成に努め、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境経営目標

環境目標		(単位) 排出係数	基準値	2023年度	中期目標		
					2024年度	2025年度	2026年度
売上高			49,237				
(1)温室効果ガス排出量削減	総排出量	kg-CO2	172,054				
	原単位		3,494.4	3,389.6	3,355.7	3,322.1	3,288.9
購入電力使用量削減	使用量	(kWh)	383,827				
	総排出量	0.407	156,218				
	原単位		7,795.5	7,561.6	7,486.0	7,411.1	7,337.0
ガソリン使用量削減		(L)	2,204				
	総排出量	2.320	5,113				
	原単位		44.8	43.5	43.1	42.7	42.3
軽油使用量削減		(L)	7,860				
	総排出量	2.580	20,279				
	原単位		159.6	154.8	153.3	151.8	150.3
灯油使用量削減		(L)	1,832				
	総排出量	2.490	4,562				
	原単位		37.2	36.1	35.7	35.3	34.9
LPG使用量削減		kg	36				
		3.000	109				
			0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
(2)廃棄物排出量の削減							
①木材のReduce(発生抑制)							
不良品の発生抑制による歩留向上			6件/年	10件/年	9件/年	8件/年	7件/年
②木材のReuse(再使用)							
廃棄物の再使用			4件/年	6件/年	7件/年	8件/年	9件/年
③木材のRecycle(再資源化)							
工場内リサイクルによる再製品化 (Material Recycle)			1.0t	1.0t	1.0t	1.0t	1.0t
熱、エネルギー源として再生利用 (Thermal Recycle)			3.0t	3.0t	3.0t	3.0t	3.0t
(3)水使用量の削減							
生活水の節水							
手洗い、流しの節水			-	状況把握	状況把握	状況把握	状況把握
(4)グリーン購入の推進							
木材調達							
合法性、持続可能性の証明			-	状況把握	状況把握	状況把握	状況把握
(5)環境保全活動の推進							
工場周辺の美化							
倉庫前、工場裏の一般道の清掃			42人	42人	42人	42人	42人
用水路周辺の草刈り			7人	7人	7人	7人	7人
地域の環境保全活動							
道路愛護活動への参加			26人	26人	26人	26人	26人
(6)化学物質の適正管理							
化学物質の使用量の把握							
SDSを入手し把握する			-	使用量把握	使用量把握	使用量把握	使用量把握
※1 購入電力の排出係数は、九州電力(2022年度)の排出係数0.407kg-CO2/kWhを用いて算定しています							
※2 原単位は、売上高1千万円当たりのエネルギー使用量							

5. 環境経営目標及び実績

環境目標	取組項目	内容	単位	2023年度 目標	2023年度 実績	達成率	判定
温室効果ガス排出量の削減 ※売上高1千万円当りのCO2発生量	二酸化炭素排出量合計		kg-CO2		168,205		○
			kg-CO2/千万円	3,389.6	3,347.7	101.3%	
	購入電力使用量削減	工場内における省電力(照明、工場動力など)	使用量:kwh		357,014		○
			kg-CO2		145,295		
			kg-CO2/千万円	7,561.6	7,105.5	106.4%	
	化石燃料削減	ガソリン	使用量:L		1,299		○
			kg-CO2		3,032		
			kg-CO2/千万円	43.5	25.9	168.3%	
		軽油	使用量:L		6,227		○
			kg-CO2		16,068		
			kg-CO2/千万円	154.8	123.9	124.9%	
		灯油	使用量:L		1,508		○
kg-CO2				3,787			
kg-CO2/千万円			36.1	30.0	120.3%		
廃棄物排出量の削減	木材のReduce(発生抑制)	不良品の発生抑制による歩留向上		10件/年	10件/年	100%	○
	木材のReuse(再使用)	廃棄物の再使用		6件/年	4件/年	67%	×
	木材のRecycle(再資源化)	集成材等に再製品化 (Material Recycle) ※売上高1千万円当りの再製品化量		1.0トン	2.7トン	270%	○
		熱、エネルギー源として再生利用 (Thermal Recycle) ※売上高1千万円当りの再生利用量		3.0トン	4.0トン	133%	○
水使用量の削減	生活用水の節水	手洗い、流しの節水		状況把握	195m3		○
グリーン購入の推進	木材調達	合法性、持続可能性の証明		状況把握	状況把握		○
環境保全活動の推進	工場周辺の美化	倉庫前、工場裏の一般道の清掃		42 人	45 人	107%	○
		用水路周辺の草刈り		7 人	6 人	86%	×
	地域の環境保全活動	道路愛護活動への参加		26 人	32 人	123%	○
化学物質の適正管理	化学物質の使用量の把握	MSDSを入手し把握する		使用量把握	使用量把握		○
※購入電力の排出係数は 九州電力(令和4年度)の排出係数0.407kg-CO2/kWhを用いて算定しています ※原単位は、売上高1千万円当たりのエネルギー使用量を表示しています。							
2023年売上高		37.142 千万円					

6. 環境経営計画と取り組み結果の評価

各部署における環境活動計画(2023年度)				
◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全然できなかった				
		実施部署	状況	評価結果及び次年度への取り組み
【温室効果ガス排出量の削減】				会議やミーティング時の節電の呼びかけもあり削減活動が定着化 全体を通すと問題ないが、 1月以降集成材の製造に伴い、集成工場の稼働が増えCO2排出量が全体的に増えた エコドライブの継続化今後も継続実施
	工場内加工機および照明の節電	製造	○	
	事務所内OA機器及び照明の節電	全社員	○	
	空調の温度設定	全社員	○	
	化石燃料使用量削減	製造/営業	○	
	フォークリフト、営業車のエコドライブ	製造	○	
	、アイドリングストップの推進			
【廃棄物排出量の削減】				新規事業に伴う業態転換の為、大きく人員の変動があり、製品不良が多く発生した為、再発防止に努める。また、勉強会を開催し、社員のスキルを上げる パレット材の集成材の製品化実施できたので、継続して、再製品化を進めていく。
	木材のReduce(発生抑制)	製造	△	
	不良品の発生抑制による歩留向上			
	木材のReuse(再使用)	製造	○	
	廃棄物の再使用			
	木材のRecycle	製造	○	
	集成材などの再製品化			
	熱、エネルギー源として再生利用			
【水使用量の削減】				節水の呼び掛け、を継続し、無駄な下水の使用を減らす今後も継続実施
	生活用水の節水	全社員	○	
	手洗い、流しの節水			
【グリーン購入の推進】				今後も継続実施
	木材調達	営業	○	
	合法性、持続可能性の証明(状況を把握する)			
【環境保全活動の推進】				長期休業前など定期的に清掃活動、草刈りを行った 今後も継続実施
	工場周辺の美化			
	倉庫前、工場裏の一般道の清掃	全社員	○	
	用水路周辺の草刈り	全社員	○	
	地域の環境保全活動			技能実習生に地域の道路愛護活動への参加を推進、18年連続の参加中 今後も継続実施
	道路愛護活動への参加	全社員	○	
【化学物質の適正管理】				化学物質に対しての適正管理の指導を行う 今後も継続実施
	化学物質の使用量の把握			
	SDSを入手し把握する(使用量を把握する)	製造	○	

7.環境経営に関する取り組み内容

環境保全活動推進

(道路愛護活動写真)



技術向上のための勉強会



8.環境関連法規への違反、訴訟の有無

区分	法規制名称
基本・一般	環境基本法
	地球温暖化の対策の推進に関する法律
大気	大気汚染防止法
	フロン排出抑制方
水質	水質汚濁防止法
騒音	騒音規制法
振動	振動規制法
廃棄物・リサイクル	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
	自動車リサイクル法
	家電リサイクル法
	クリーンウッド法
その他	グリーン購入法
	PRTR法
	消防法

環境関連法令、条例の順守状況を確認した結果、2023年度は違反はなく、また関係機関からの指摘もなく、訴訟も同様に1件もなかった

9.代表者による全体の評価と見直し

項目	
環境経営方針	基本理念を再認識し、行動指針に則って取り組みができました。
環境経営目標 及び 環境経営計画	業務転換を進めながら新規事業を推進する中で、現単価による二酸化炭素排出量が目標に達成できたことは評価できます。 新規事業を進める中で不良品を抑える目標達成が未達だったことは、今後目標値を再検討することも必要だと考えます。 来期は人員の増員や部署の移動に伴う生産性の増加を計画しています。 電気使用量や化石燃料使用量の増加が予想されるが環境経営に対する意識を再度全社員で確認し継続してきた良い習慣を更に磨きをかけてほしいと考えます。
環境経営システム	特に必要とする必要がないと考えます。 次年度以降も必要に応じて仕組みを見直します。